

オンライン採用
フルサポートパッケージ⑧

オンライン会社紹介

7 つのコツ

➡ ご相談はこちらから ⬅

オンライン採用 フルサポートパッケージについて

オンライン採用フルサポートパッケージを提供する株式会社ジェイックでは、中堅中小企業を対象に、採用支援・社員研修のサービスを提供しています。

[ジェイックのサービス一覧はこちら](#)

オンライン採用フルサポートパッケージは、これからオンラインでの採用活動に取り組まれる企業、オンライン採用の質を向上させたい企業を対象に、押さえておくべき9個のテーマをレポート形式で、完全無料で提供します。

【オンライン採用 フルサポートパッケージ 一覧】

追加でダウンロードしたいタイトルをクリックしてください

[①オンライン採用に必要なデジタル機器リスト](#)

[②web面接のトラブルを激減できる事前案内とトラブルシューティングのポイント](#)

[③オンライン採用で面接官を魅力的に見せる5つのコツ](#)

[④オンライン面接の印象が良い会社／悪い会社 違いが生まれる原因は？](#)

[⑤オンライン面接の進め方マニュアル](#)

[⑥オンライン採用での見極め 5つのポイント](#)

[⑦オンライン採用で人材を魅了付けする5つの秘訣](#)

[⑧オンライン会社紹介 7つのコツ](#)

[⑨オンライン会社紹介 Sample & テンプレート](#)

【オンライン会社紹介】

オンライン採用では、会社紹介も当然オンライン上で実施します。

「会社説明会」などで実施する場合、「面接内で会社紹介を行う」場合、両方あると思いますが、基本的なポイントは同じです。

<テクニカル編>

- A.画面共有を前提にしたフォントサイズ
- B.テキスト少なめ、写真多めのスライド
- C.“まとめページ”の重要性

<コンテンツ編>

- D.一方的に話すのは「10分」まで
- E.会社紹介の項目

<パフォーマンス編>

- F.「声」の抑揚やテンポ
- G.小まめな理解度チェックとQ & A

本資料は「双方向のWeb会議」をイメージして記載していますが、「配信+チャットでのQ&Aによるウェビナー」でも基本的なコツは変わりませんので、ご活用ください。

【A.画面共有を前提としたフォントサイズ】

いきなり細かい話となりますが、オンラインでの会社紹介は、「画面共有」の機能を使って行うことが殆どです。画面共有を使ってパワーポイントを共有する場合、通常のスライドショーで画面いっぱいに表示される場合と比べて、画面が小さくなります。感覚としては、6～7割ぐらいになる感覚です。

そうすると、“小さめのフォントで箇条書きで書かれていると読めない”という致命的な問題が生じます。リアルなプレゼンテーションでも同じですが、字が読めない、読みづらいと話に集中できず、説明の声も頭に入りづらくなります。

通常のプレゼンテーションでは、“フォントサイズは20pt以上”と言われますが、画面共有で使う場合はもう少し大きめ、24～28ptぐらいを使うことがお勧めです。

とくに図やグラフなどを貼り付ける場合には“図の解説やグラフの数値が見えるか？”は、気を配っておくと良いでしょう。フォントサイズは、とくに配布前提で使っていた資料を、画面共有する時は注意が必要です。

【B.テキスト少なめ、写真多めのスライド】

前のブロックでお伝えしたフォントサイズと重複する部分がありますが、プレゼンテーションの投影資料でよく言われる内容と同じです。

“1スライド1メッセージ”に情報量を絞り込みましょう。

キャッチコピーや写真で興味・関心を惹きつけ、
声で補足する構成をおススメします。

1スライドに盛り込む情報量を絞り込むと、
進行に伴ってスライドの切り替わりが生じますので、
集中力を維持しやすくする効果もあります。



【C.“まとめページ”の重要性】

会社紹介のなかで、ブロックの終わりなどには、
“話した内容をまとめたスライド”を、1枚入れると効果的です。

一見すると“スライド1枚の情報量を絞り込む”と矛盾しますが、
このスライドは“後で振り返ってもらうための情報”です。
オンラインで会社紹介する場合、応募者の手元には資料がありません。

また、ビデオがオンになっていたり、画面を見ていると、
意外とメモを取りづらいものです。

説明会の事前・事後に「投影資料をPDFにして共有する」ことが
多くなりますが、まとめページがあると、応募者が情報を思い出す、
確認することで、質の高い応募動機づくりや志望度の維持に繋がります。



【D. 一方的に話すのは「10分」まで】

オンラインで一方的に話を聞くのは、リアルと比べると、疲労が溜まり、集中力も切れやすくなります。従って、対面での実施と比べると、会社紹介は短めに行います。例えば、中途採用などで、面接の中で会社紹介する場合であれば、紹介が10分、Q&Aをあわせて20分程度。「説明会」として実施する場合でも説明が20～30分、Q&Aを併せて40分というイメージです。

対面の新卒説明会などで、40～60分ほど、人事が淡々と会社紹介している場合がありますが、オンラインでは絶対にNGです。7～10分に1回程度は理解度を確認したり、質問を受け付けたり、一方的に聞くのではない「切り替え」を入れることがおすすめです。

時間が短くなるので、説明資料は、可能な限り事前共有して、「読めば分かる」話は割愛します。代わりに、事業の想いや仕事のやりがい、会社の雰囲気など、定性的な部分の紹介に時間を使うことがおすすめです。



【E.会社紹介の項目】

会社紹介の項目は、リアルでの会社紹介と変わりません。

- ① 会社概要、事業内容
- ② 事業の想い、社会的価値、成長性
- ③ 仕事内容
- ④ 入社して得られる経験、成長
- ⑤ 上記が実現しそうな補足（教育、キャリアパス、社風etc）

といった項目を押さえましょう。

繰り返しになりますが、データを共有すれば済む会社概要や事業内容、待遇の説明には時間を使わず、オンラインや採用ホームページではイメージしにくい事業の想いや価値、得られる経験や成長等を、重点的に説明しましょう。

事前に応募者に資料共有しておき、内容をざっと理解してもらった上で、会社の魅力ポイントをしっかり伝えることに時間を使うことがおすすめです。



【F.「声」の抑揚やテンポ

画面共有すると、応募者の画面は、共有された画面が主となり、スピーカーが映っている画面は小さくなります。

従って、対面のプレゼンテーションと違って、ジェスチャーや表情で注意を惹きつけることは困難です。

その分、「声」が重要になります。

注目を惹きつけたり、熱意を伝えたりするのは、すべて「声」です。

パッケージの別資料でも解説しましたが、ウェビナーの場合、「通常の1.5倍のテンポとテンションで喋る」ことをお勧めします。

抑揚のない話し方ですと、聞きづらく、集中を妨げます。

「声」のテンションを上げて、抑揚をつける、また、早めのテンポで喋ると良く伝わります。



【G.小まめな理解度チェックとQ&A】

オンラインでのプレゼンテーションは、
対面と比べて、参加者の細かな表情の動きが見えません。
更に「画面共有」すると、ほぼ相手の顔は見えなくなります。

対面でのプレゼンテーションであれば、
参加者の表情の変化や反応を見ながら、

- ・興味を持っているブロックを重点的に話す
- ・理解度を確認しながら、補足したり、ペースアップする

といった調整が出来ます。
オンラインでは、これが出来ません。

更に、話すテンポをあげて伝えていきますので、
5～10分程度に1回、相手の理解度を確認する質問を入れたり、
Q&Aを受け付けたりします。

これにより理解不足の人が出ることを
防いだり、参加者の興味・関心に
合わせて情報提供を行います。

